

祭の効用

藤森 重紀

桜祭 夏祭 秋祭 雪祭――

季節のことばに「祭」が寄り添うと

町中がひとさわ はなやいでくる

――バスを降りたら 神社もちょうど夏祭

よお 久しぶり なんて

矢沢永吉ふうの男衆たちが

ラップ口調で差し出すビール

そんな好天吉日に まず乾杯！

風にはじける 神楽の囃子

笛とかさなる遠花火

そのつど太鼓も高鳴るけれど

この祭がはねれば 季節が変わる

ゆっくり「祭」のことばも取り払われて

やがて「桜」や「夏」や「秋」だけの

さみしい夕べの予感がするから

いっそう男衆も女子衆も

踊って歌ってもありあがる

いっきに 祭に季語を凝縮させて

また来る年のにぎわいの

より達者な 待ちびとになるために

